



「読書三到」と心に残る「自分の一冊」との出会いを

校長 永山 誉

いよいよ秋本番です。10月は、一年のうちで人間が生活するのに一番適した気温となる月といわれ、「食欲の秋」「スポーツの秋」「芸術の秋」「読書の秋」と、様々な秋にちなんだ言葉が使われる月でもあります。それぞれが、それぞれの秋を楽しむ季節となりました。「灯火親しむ秋」、爽やかな気候と夜の長いこの季節、御家族そろって読書でもいかがでしょうか。

さて、読書といえば、子どもの本離れが言われて久しくなりますが、今年も大東小学校では、読書への関心を高め、心を豊かにする本や学習に役立つ本を進んで読む態度を養ったり、学校図書館の活用をさらに進める機会として集会を持ち、望ましい利用態度を育てたりするために、10月9日～11月10日を「秋の読書月間」として、読書に関する様々な取組を行います。読書は、子どもたちの心情や感性を豊かなものにすると言われますが、本に慣れ親しんでいない子どもたちにとっては、読書をしようといってもなかなか本に手が届かないものです。そのような子どもたちにとっても、「秋の読書月間」をきっかけとして、新たな本に手を伸ばして、心に残る「自分の一冊」に出逢ってほしいものです。

ところで、「読書三到（どくしょさんとう）」という言葉をご存知でしょうか。これは、宋の朱熹（しゅき）が唱えた、読書に大切な三つの心得のことです。「三到」とは、目によく見ること（眼到）、声を出して読むこと（口到）、心を集中して読むこと（心到）の三つを指します。本を読むとき、眼・口・心をその本に集中して熟読すれば、内容がよく理解されるということを示しています。子どもたちには、爽やかな気候の下、この三つの心得をもって読書に取り組みながら、読書の楽しさも同時に味わってもらいたいと考えています。

創立50周年事業「大校章と校名表示」の取付けについて

本年7月7日に、高橋副市長や細田教育長をはじめ、歴代の校長先生や地域の方々に御臨席賜り、本校体育館にて、盛大に創立50周年記念式典を挙げていただきました。当日は、蒸し暑い中でしたが、本校の50年の歴史を振り返りながら、地域の皆様とともに大東小学校の50周年をお祝いできましたことに深く感謝申し上げます。保護者の皆様、地域の皆様には、今後とも学校教育への変わらぬ御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げます。



さて、9月中旬に、50周年記念事業の一環として、正面昇降口上に、大校章と校名表示が取り付けられました。新しい大校章と校名表示は、大東小学校の新たな顔として、これからの50年を見守ってくれることでしょう。御来校の際には、是非新しい大校章と校名表示を御確認ください。

この設置に当たりまして、創立50周年事業実行委員会の皆様をはじめ、保護者の皆様、地域の皆様に多大なる御支援と御協力をいただきましたことに深く感謝申し上げます。